

第三等當選

堆肥

山路霧草鞋しとく夜も深し
 物燥し場白衣の裾に野菊かな
 月瘦せて置坐淋しき夜寒かな
 たんせんの糊生なまなま生し夜寒かな
 かてんらの光流るゝ鬼灯かな
 荒れ庭は鶏頭ばかりの赤さかな
 ビードロにさしゝ鶏頭の赤さかな
 土臺石据ゑしばかりの野菊かな
 蘆分けて鯊釣る人や帽子古し
 鶏のつゝく堆肥に野菊かな

伊藤功

第二等當選

放つ矢に風ありそよぐ若葉哉
 蛇泳ぐ小川の漣なみや穂麥原
 穂麥晴れて十里波うつ託摩哉
 村に通ふ提灯一つ五月雨
 落梅に草揺れ猫の欠伸哉
 繪本見る娘の口紅きぐみの影
 日向青島
 銀河揺れて蒲葵ろうげの島に風渡る
 噴烟クエリとも見分かぬ雲や登山茶屋
 カンテラ揺れて魚刺す子見る夕涼
 ひたる温泉の上を流るゝ銀河かな

蘇

人